

令和4年度

石川町議会と消防団各分団幹部との意見交換会記録

日 時 令和4年11月16日（水）午後6時50分から午後8時50分まで

場 所 石川町役場 正庁

出席者

消防団各分団幹部（敬称略）	議 員
吉田 章吾（石川分団長）	乾 初美（記録）
岡部 知司（中谷分団長）	小木 芳郎（報告）
板橋 学（山橋分団長）	渡辺 実（班長）
水野谷正史（沢田分団長）	関根 信次
鈴木 友之（母畑分団長）	草野 伝明
草野 裕（野木沢分団長）	

次 第 1 開会（挨拶）渡辺 2 自己紹介 3 議会報告
4 意見交換 5 閉会

発言内容等

○：新入団員が確保できない。以前は消防団員勧誘するにしても、先輩後輩、地域のつながりで勧誘が確立していたが、今は、人数はいるが、「仕事の都合」など理由をつけて、入団に抵抗を持っている人が多い。また、人との関わりや地域貢献といった意識が低下している。。勧誘に行くにあたって、区長と行ったりするがなかなか入ってもらえない傾向にある。団員確保については、「部を統合しないのか」など、話題にはなるが、若手が少なくなっているため、少ない人数で広い地域を見ることになるので、負担が大きくなる心配がある。消防団員の確保が問題。

議員：町内全体の問題。

○：勧誘に行っても本人に会えないことが多い。親が断ってくることも少なくない。何回勧誘に行っても同じ。

議員：総務省が待遇改善を行ったが、危機感を持っている。少子化の状況もある。

○：母畑もそうだ。本人に会えず、玄関先で家族から断られる。行政区でも若者に声かけはしているが、結びつかない。定員に足りない。行事をやろうとしても人手不足で、今までできていたことができない。

○：定員割れはどこの部も一緒。

○：本人が退団するといえば、辞められるのが現状。引き止めても長くは続かないし、強制できない。

○：団員の確保が一番の課題。災害は火災だけでなく災害全般。

議員：災害については、ゲリラ豪雨も増えている。自身も増えている。各分団の知恵を絞っても難しい問題

○：若者はいる。本人と一度会って話したい。

○：待遇改善はみんなありがたいとは思っているが、家族が、「消防団やりな」といってもらえるような環境があればいい。消防団になると、住民税が安くなるとか、出動手当がアップするとか、優遇措置があると入る人が増えるのではないか。

議員：昔は名誉職のような部分が強かった。具体的にどのようにするか。

○：沢田は人がいなくて、あと 2、3 年しかもたない。組織改革が必要。沢田は人がいない。OBを戻すこともできないので、そこをどうしたらいいのか。

議員：昔は、みんなが入らなくても消防団やる人がいた。

議員：地区では、消防団加入が当たり前で、誰もが避けて通れないような時代だった。行政がかかわらなければならない。火事場に間に合わないというようなクレームはできない。解決策が見つからない状況だが、なくては困る団体。負担を軽くするように、行政がかかわった改革をすべき。

議員：地域での個別訪問はハードルが高い。企業訪問や団体訪問、イベントに参加するなどして勧誘をやっているか？

○：いきなり企業に行っても理解してもらえないと思う。行政区のイベントで声をかけているが、若者はそのイベントにも出てこない。

議員：役場と企業との協議も必要。

○：地元の火事なら出動してもいいよという企業もある。

議員：企業によって温度差はある。行政が企業と話し合ってからなら効果がある。

○：町と協議してもらってからなら、勧誘に行ったら話を聞いてもらえそう。

議員：大井製作所は、役場が頻繁に訪問して火災の際の出動に理解をしてくれていたような会社もあったと記憶している。行政がしっかり動くことも必要。企業も利益を追求するところだから。

○：以前は大井製作所から 200 名ほど団員になってもらっていた。1月6日が出初めだったが、大井製作所が仕事始めだったので日曜になったという経緯もある。

議員：根本的な問題として消防団に入りたくないといった傾向をどう改善するか。勧誘に行った部長・副部長と面識がないとハードルが高い。

議員：年齢の近い団員を勧誘に行かせることも必要だと思う。危険な仕事でもあるし、怪我也心配なのが親。親が断る理由はそれもある。部長をやって団員に戻って活動している人がいると言っていたが、最高年齢は？

○：59歳が最高齢。

議員：50過ぎでも玉川では継続している状況。専門の課ができたので、相談して進めてほしい。面倒くさいことはやりたくないという感覚なのでは。

○：酒飲みに関しても、とても改善している。新兵だからこれをしなくてはいけないということもない。難しいイメージをなくしている。

議員：昔なら、先輩には何も言えない状態だった。各地域の自主防災組織についてはどう思うか？

○：日中の火事の現場で見るのが、OBが手伝っている光景。怪我の問題もある。怪我については、町が面倒見てくれるとなれば、協力してくれる方を募集できる。

○：以前OBが怪我をしたけど、地元の人動きはすごかった。地元の活動もこれから不可欠。検討してほしい

議員：中野の防災組織は？

○：中野地区に、通称赤ヘルというOBの組織がある。野木沢分団とも、年一回一緒に訓練したり、懇親会をしたりしている。とても助かっている。

議員：昔からOBは手伝っているので助かっている。赤ヘルのような組織を作るとよい。

議員：いいと思うが保障はきちんとすべき。行政区の草刈りで怪我人もいたが、保険に入っていなかった。何があるか分からないので保障は町で考えないといけない。団員として、町に要望はしっかりと伝えるべき。安全確保のためには装備も大切だと思う。

議員：装備は要望すればすぐもらえるのか？

○：まずこない。長靴ですらなかなか貰えない。すぐ来る年とこない年がある。長靴は在庫がないといわれたときがある。退団した人達にもらっている。

議員：未だにトイレのない屯所がある。議会の中で要望していきたい。

○：新築の屯所にはついているが、古いところはない。あっても簡易トイレ。

議員：長ぐつを要望しても来ないのはびっくりする。通りが悪いのでは？町に上がってきていないのでは。

議員：議会としては、執行部側から消防関連の予算が上がれば通している。

議員：予算に上げて来ればいい。

○：長靴も一度しか支給されない。火事場にも長ぐつをはいて行っている。長靴は式典用といわれている。

○：活動中も傷まないか気になって仕方ない。

議員：長ぐつは最低限必要なものだ。防寒着は議会みんな賛成したが、耐火ではないので火事場には着ていけないと聞いてびっくりしている。

○：耐火ではないので、防寒着は着れない。火事場は法被で行くことになっている。広域は耐火服を着ていく。耐火服は部に 2 着ずつ。棚倉・鮫川は 1 人一着。新兵には退団者の分を渡して、新しいものが来ない時がある。

議員：消防団に入る人が少ない中で、新人に新しい服を支給しないのはどうなのか。団員確保の中で、女性消防団にも同じ活動をする検討も必要なのでは？

議員：昔は婦人消防団があったが今は消滅した。南山形、中谷で活動していた。父が日中いないとき、可動式の小ポンプを使用して活動していた。

議員：消火栓の使い方も女性こそ知るべき。

議員：どうすればいいか検討必要だが、女性も力になると思う。

議員：声は上げるべきだと思う。平団員は言えないので分団長が言うべきだと思う。議会は協力する。

議員：各地域で一番頼りになる団体。

○：頼ってはくるが、勧誘に行っても断られる。

議員：町全体としての魅力化や PR が必要。若者は面倒くさいと思っているのかも。

○：遊ぶ時間がなくなるとは言われる。土日や夜間拘束されると遊びに行けない。

議員：防火水槽は作っていないのか？今のままでも間に合うのか。

○：もつとないといけない。母畑で実際火災があったとき、2 箇所あったが防火水槽がどちらも空で、水を入れる場所もなかった。防火水槽がこまめにあれば違うと思う。

○：防火水槽へ水道からも直接引っ張れるような蛇口をつけてもらったりしている。そうできない防火水槽については、改善が必要。

○：県道には水道があるが、防火水槽がない。消火栓も玉川村が絡んでいる地域のため、区長から要望書を申請しているが、断られた。何のための水道かと思う。

議員：玉川へ水を売っているからだが、石川と玉川で協定を結べばいい話。防火水槽がないとこ

ろは水を貯めているが、凍ってしまっている時もあった。防火水槽は町に要望して作っていかなければならない。

議員：防火水槽は区長が要望するのか？

○：そうだ。

議員：これから作る防火水槽は蓋つきで作ったほうがいい。砂が入って水がたまらず、いざというときに使えない。凍ることもある。浅川町はそうしている。

○：各部の部費を使って屋根をつけて、落ち葉が入らないようにしているところもある。

議員：地元の議員が要望していくことも必要。

議員：組織の中で風通しを良くして、要望していくことが大切。分団長も責任を持って町へ要望すべき。その他、議会に対する問題でも何かあれば。

○：企業誘致や住宅誘致など、町を活性化しないと人口減少で、そもそも問題が解決しない。石川町に住みたいとなと思えるような政策を進めてほしい。

議員：若者の住宅建設には補助金がある。来年度も拡充していくことになっている。道路・水道などのインフラ整備に力を入れないと、そもそも企業誘致できない。インフラ整備をしていかないと、民間の開発は進まない。なんとか若い人に住んでもらうということは、町の最大の課題ではないか。

○：私は、雇用促進住宅に最後までいた。耐震問題で出たが、震災で浪江の人の避難所にもなった。施設などの有効活用を進めてほしい。

議員：民地の町道認定も課題。住宅団地ができそうな部分へのインフラ整備が必要。

議員：地形の問題もあり、余計な経費がかかる。石川町の土地を選んで貰えない原因がある。思い切った施策が必要。

○：水害にあって、解体し、同じ土地に建てようとした時、消防法など道幅の問題が出ている。

議員：嵩上げ補助金はあるが、土地がくっついていて、嵩上げできないところもある。町全体で、旧市街地をどうするか考えていかなければならない。

議員：松木下は、浸水後、若い人は住まない。

議員：議員からも聞きたいことがあれば。

議員：安全装備品は充実しているか？

○：ヘルメット、耐火服が各部に2着、手袋3～5双くらいしかない。

議員：充実していないとすれば、議会も協力したい。

議員：単純に火災の現場は木材だけではないので、いろんな素材が使われているので、マスクだ

けではダメなのでは？アスベストは飛散する。装備の他にも安全に対して考えていくこと重要。

議員：処理するところがない部材や、アスベストがある。火事で吸い込むのは体に良くない。

議員：火事現場ではどこに使われているかわからない。古い家はあると考えて対応した方がいい。

アスベストについては世界に比べて日本は対応が緩い。

議員：なかなか結論がでない問題ではあるが意見交換ができてよかったです、議会も精一杯頑張る。団員も要望を出して行ってほしい。今後何かあれば、議会に要望してほしい。ありがとうございました。